

会 議 録

会議名	2026 年度第 1 回東浦町地域福祉推進委員会	
開催日時	2026 年 6 月 29 日（月）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで	
開催場所	東浦町勤労福祉会館 2 階 会議室 1	
出席者	アドバイザー	原田正樹氏
	委員	原田正治氏、金神正之氏、日高啓治氏、水野泰介氏、吉田禎宏氏、寺倉正恵氏、山崎紀恵子氏、金森大席氏、友永涼子氏、大澤美佐子氏、鈴木洋子氏、滝川美知子氏、宮池始氏、田島由美子氏、瀧本星子氏、山田祐太氏、外山綾子氏
	事務局	原田ふくし文化部長、村上ふくし課長、森ふくし課社会高齢係長、友永ふくし課地域共生社会推進係長、大島ふくし課地域共生社会推進係主事、畔上障がい福祉課長、新家子育て支援課長、三浦健康課長、高見東浦町社会福祉協議会事務局長、山木東浦町社会福祉協議会統括係長、和田東浦町社会福祉協議会地域福祉係長、田中東浦町社会福祉協議会介護事業係長、小林東浦町社会福祉協議会包括係長
議題	（１）第２次東浦町地域福祉計画の進捗状況（評価）について （２）事務局アンケートの結果について （３）住民アンケートの結果について （４）第３次東浦町地域福祉計画骨子（案）について （５）重点プロジェクトの考え方について	
傍聴者の数	0 名	
審議内容	◆事務局 ・委員 18 名中 17 名の出席により、委員会開催の定足数に達していることを確認 ・会議録作成のための録音の了承 ・次第に従い、会議を進行 1 あいさつ ◆事務局（ふくし文化部長） ・本町では、誰もが住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現を目指し、「「あんき」に暮らせるまち 東浦」を基本理念に掲げ、第２次東浦町地域福祉計画に基	

	づく各施策を推進しております。今年度は、第2次計画の最終年度として総まとめを行うとともに、来年度からスタートする第3次計画の策定に取り組む重要な年となっております。 新たな計画の策定にあたっては、第2次計画の基本理念を継承しつつ、近年の社会情勢の変化などを踏まえ、施策の見直しを図りたいと考えております。本日の会議では、第2次計画の進捗状況の評価、事務局・住民アンケートの結果、第3次計画の骨子案と重点プロジェクトの考え方を議題としております。事務局からの説明の後、委員の皆様からの貴重なご意見を賜りたく存じます。ぜひ活発なご議論をお願い申し上げます。 ◆事務局 ・新たに委嘱した委員4名を紹介及びアドバイザーの出席の報告 ・配布資料の確認の後、以降の進行を委員長に引き継ぐ 2 議題 (1) 第2次東浦町地域福祉計画の進捗状況（評価）について (2) 事務局アンケートの結果について (3) 住民アンケートの結果について ◆事務局 【資料1、資料2-1、資料2-2、資料3について説明】 ◆委員 ・お願いします。資料1の12頁について、避難行動要支援者の個別避難計画の対象者を教えていただきたいです。ヘルプマークを持っている方も含まれるのでしょうか。 ◆事務局 ・個別避難計画の作成は、避難行動要支援者の登録をされた方が対象となります。避難行動要支援者は、東浦町で登録制度を設けていて、例えば、要介護3～5の方、身体障害者手帳の1・2級の方、療育手帳A判定の方、75歳以上の一人暮らし、75歳以上のみの世帯の方など要件がありますが、災害時に自ら避難することが困難な方が対象となります。令和4年度に避難行動要支援者に対して勧奨通知を送っていますが、避難行動要支援者の登録者は3月末日現在で482名となっています。
--	---

◆委員

- ・資料3の外出について、目的地までの移動手段がないために外出を諦めた人がいたり、車を手放すことが課題、ご懸念されている方がいらっしゃる結果が出ていました。これについて、地域別のデータはわかるとよいと思いました。サンプル数も少ないため難しいと思いますが、どこの地区で皆さんが懸念されているかを知りたいです。今後進めるにあたりどのようにやっていくかを皆で考えられたらと思います。
- ・縦割りのためになかなか難しく進められないことが課題としてあると思いますが、例えば、プロジェクトチームやワーキンググループなど、横断的なチームをつくるなどの動きは今後あるのでしょうか。

◆事務局

- ・資料3の21頁、地域で安心して暮らし続けるために必要なことの中の「車を手放しても不自由なく買い物・通院等ができる」について、最も高いのは卯ノ里で87.9%、次いで片葩で85.6%、藤江で84.0%の順となっています。それ以外の調査結果につきましても、小学校区別の分析をしているため、今後、報告書として皆様にご提示した際にご確認いただければと思います。
- ・各事業において、今もプロジェクトチームはつくられています。例えば、生活困窮などの他の分野と連携した情報共有は、各会議や打ち合わせで図っているところではあります。それがプロジェクトチームになるかについては、事業等が具体的に進み、このようにやっていかなければならないということが進んでいく中で組織されるべきだと思っています。

◆委員

- ・住民のアンケートの有効回答率が38.9%となっていますが、これは良いのか、低いのかをお聞きしたいです。
- ・社協と行政にとっていただいた関係者向けアンケートについては、とても率直なご意見をうかがえたことを嬉しく思います。自由記載の中にもよいご意見があるため、ぜひこういったものが叶えられていく、対策が取られるとよいと改めて思いました。

◆事務局

- ・地域福祉の調査につきましては、若い方から高齢の方までいろいろ

るな方に答えていただきます。高齢者の方は回答していただけますが、若い方はなかなかアンケートに答えていただけない現状もあります。この 38.9%という有効回答率については、他市町と比べて同水準かと思います。

◆委員

- ・資料 3 の 22 頁に地域のつながりの希薄化がまとめに出ています。私たちは 6 つのコミュニティがあり、そのコミュニティで地域とのつながりのために事業をやっていますが、アンケートを見るとあまりつながっていないということで、落胆しています。隣組スクラムの防災関連で少しずつ地域のつながりを強くしていくことを考えていますが、数字は上がっていない。アンケートを取られて、どのように地域のつながりを強くしていくのか、そういった話があれば教えていただきたいです。
- ・特に、地域活動に若い方を巻き込むことについて、各コミュニティでいろいろと取り組んでいますが、お子さんを預ける取組には参加していただける一方、親子で一緒に参加する取組は嫌だと言われます。理由を聞くと、子どもと一緒にいることが嫌だというお答えもありますので、親子で参加していただけるようなことを考えています。夏休みの自由研究を検討しましたが、25 人の定員で申し込みは 3 名でした。なんとか孫などを誘って 8 人になりましたが、開催が危ぶまれています。このような苦しい状況の解決策があれば教えていただければと思います。

◆事務局

- ・地域のつながりの希薄化は、東浦町だけではなく、他市町でも進んでいます。そして、地区の活動が少しずつ良くなり、集まる機会ができてきたところで、コロナ禍によって、もう一度振り出しに戻ってしまったということが様々な地域で起きました。同じような調査を実施すると、地域のつながりの希薄化がどうしても表に出てきてしまいます。本当は「何かこういうことをやるといいよ」とご助言できるとよいですが、私ども模索しているところです。
- ・また、個人で情報が入手しやすくなっています。皆さんスマホを持ち、SNSを含めて様々な形で情報を入手しているので、人と人とのつながりで何かを得て、自分の生活を高めることが少なくなっていると思います。つまり、繋がりがなくても生活に満

	足している人が増えてきている。ただ、実際にお話をする、若い方も含め、誰もが人と人のつながりは大事だと言います。 ・そうした中、最近では地震や想像もできないような災害もあるため、皆さん危機意識があります。そのため、防災については、若い方も比較的自分が何かできるのではないかと、あるいは自分一人で怖いという意識があるため、そういったところで地域のつながりをつくるきっかけもあると思います。 ・また、お子さんを絡めた話だと、皆さん比較的参加される。ただ、子どもを預かってくれるとよいが、一緒に嫌だという話もあるとのことでした。いずれにしても、お子さんについては皆さん真剣に考えているため、子どもを絡めることも一つのヒント。お子さんを絡めた活動や防災活動は、大事になってくると思います。ある程度個人主義が進んでいくことは仕方がないため、その上に立ってもう一度つながりをつくっていくことは私どもも一緒に手探りさせていただきたいと思っております。 ◆委員 ・東浦町も他の市町と同様に、単身孤立の方はやはり課題が多くあると思います。そういった意味では、2次計画でやってきた「ほっとけん」「やくわり」「ささえあい」は必要な内容だったと思いますし、私がプロジェクトでやっている「ほっとけんな〜」はますます必要になってくる。 ・その中で、個人情報への壁がある。民生委員にも個人情報なかなか降りてこない中で、お節介がやりにくい。気がかりな世帯があってもなかなか声がかけられないこともあると考え、「助けて」と言える人はよいですが、言えない人は関わりが難しいと感じています。 ・また、アンケート結果については、障がい者のいる世帯や高齢者世帯、単身世帯、子育て世帯など、家庭環境によって結果が変わってくると感じました。 ・3次に向けて、縦割りについて、「連携」とよく書きますが、そのためにどういう行動を取るのかについては、プロジェクトだけではなく、今ある事業を再考する必要があるかだと思います。それは、地域福祉計画のプロジェクトや会議だけではなく、それぞれの課の関係会議を再考する必要があると感じました。
--	--

◆委員長

- ・行政や社協のアンケート結果から、地域福祉計画が時々意識されるような取組の姿勢があるとありがたい。そういう機会として、連携し、新しい場ができるとよいと思いました。

(4) 第3次東浦町地域福祉計画骨子(案)について

【資料5について説明】

◆委員

- ・本人や家族を支えるネットワークづくりについて、新しく入った「身寄りのない人への支援」が大事だと思いますが、身寄りがあるために対象から外されることが時々あるため、例えば「頼れる人のいない人への支援」だとよりよいと思います。

◆委員

- ・「地域福祉を支える人材の確保・育成」についてとありますが、これは具体的にどのくらいの人数を考えているのでしょうか。資料2-2に「「やった時にはプラスの反応がある」「日常もつながっている内容」であることを踏まえれば、重点プロジェクトや各企画と住民の日常との媒介、つなぐ仕組みや、人、関わりが重要ではないか」と思います。また、そこにはCSWに限らず各部署が意識・意図をもって関わって共有していくことがやはり必要になってくると思います」というご意見がありますが、CSWの方々の仕事量の多さを感じています。事業がある度に、同じ顔ぶれの方が出てきて、いろいろとされています。もちろん一生懸命なさるし、その効果をみてもとても立派なお仕事をされていますが、あまりにも決まった方ばかりではないか。今回「人材の確保・育成」を入れられたのはとても嬉しいことだと思っています。具体的なことがありましたら教えていただきたいです。

◆事務局

- ・CSWの方々は困りごとを解決する動きをしていただき、本当に助かっている限りです。地域で相談業務を行っている方は、子どもの分野では子ども家庭センター、高齢の分野では地域包括支援センター、障害の分野では東浦町障がい者相談支援センターがあります。それらの様々な相談機関の相談員の方々が連携して地域の困りごとを解決していく中で、人を増やしていくことが必要な場合もあるかもしれませんが、より連携を強化し、地域の支え合

	いを進めていきたいと思っています。 ・また、先ほどご意見があった「身寄りのない人への支援」について、身寄りがいなくても「頼ることのできない身寄り」の方々がたくさんいると思います。ここで表現したいのは、頼れる人がいない、頼ることができない身寄りのない人という解釈をしていただければと思います。表記については検討したいと思っています。 ◆委員長 ・継続するプロジェクトの中の「ほっとけんな〜」については、対象が頼れる身寄りのいない人への支援となっているところもあり、そこに焦点が当たってくるため、重点プロジェクトの説明をしていただくと議論も深まると思います。 (5) 重点プロジェクトの考え方について 【資料5について説明】 ◆委員長 ・重点プロジェクトについて、第3次計画の中でどのように位置づけるかについては、皆さん、第2次でそれぞれのプロジェクトに関わっていましたので、思い入れもあってご意見が多いのではないかと思います。今後、部会で議論を深めていくということですので、今日は今後の進め方で必要なことなど、全体に関するご意見があればお願いします。 ◆事務局 ・アドバイザーの原田先生から本日のご講評をいただきたいと思います。 ◆アドバイザー ・これから第3次の計画に向けてどんな形でこの計画の進行管理（PDCA）をしていくか、今回とても大事な議論をされたと思っています。資料1について、PDCAを回していくときに、第2次計画で出した基本施策をどのように評価して、第3次につなげていくかが大事になります。面白いのは、自治体によって全然違います。A～Dの4段階で評価していますが、CやDばかりつける自治体もあれば、東浦町はほとんどがAやBです。これは、良い、悪いではなく、どういう基準で何を評価するかがとても大事だと思っています。資料1を丁寧に吟味しながら、Aではある
--	---

	けれど、本当に中身は大丈夫だろうか、質的に達成できているか、その上で、第3次計画にどうつなげてくかを丁寧に見ていく必要があると思いました。 ・資料3のアンケートの調査結果 19 頁の定住意向について、定住意向が7～8割はないと、地域を良くしようとリーダーの方が頑張ってもうまくいきません。よく言われるのは、定住意向が6割以下になると、リーダーが頑張っても地域活動がしにくくなる。77.0%は決して高い数値ではなく、むしろ「将来はもっと住み良いところに移りたい」や「すぐに住み良いところに移りたい」が増えてきていることの方が心配です。特に、居住地区別にみると、6割を切りそうな地域が出はじめてきており、地区によって定住意向に差がありそうです。解決策や特効薬があるわけではないが、そうしたことを踏まえたうえで、政策を考えていくことが大事だと思いました。 ・頼れる身寄りのいない人たちの支援については、資料3の 10 頁で、単身世帯のうち、相談したことがない 9.1%の人が心配な世帯に当たります。単身世帯は、高齢者の単身と、若い人の単身が増えているため、分析をしていただくときに単身世帯と年齢をクロスしていただいて、18 歳から 30 代ぐらいの若い世代の単身と、70 代以降の高齢者の単身がどうなっているのかを見ておいた方がいいと思います。 ・19 頁に戻っていただいて、定住意向について、年齢別にみると、18 歳から 29 歳の若い世代は「住み続けたい」が 66.7%です。一方で「将来はもっと住み良いところに移りたい」は、若い人の 25%以上が回答しています。もう一つ多いのは 50～59 歳です。若い人たちは、もっと良いところがあれば移り住みたい。でも、子どもができるのと定住意向が強くなり、子どもが巣立って定年間際になると、老後、東浦でいいのかを心配され、お年を召されると東浦に住み続ける方が増える傾向が出てきています。その部分も含めて、若い世代と高齢の世代の、頼れる身寄りがいないという部分は、丁寧に分析していく必要があると思います。 ・このような新しい課題を踏まえて、これから第3次をつくっていくことが大事だと思いますので、部会等の議論で、新しい課題に挑戦しつつ、これまでの重点施策を続けていくことも必要。第3次に向けて、次の5年間に大事にしていくことの議論を積み重ねるといいと思います。
--	---

	3 その他 ◆事務局 ・連絡事項等の確認 ◆委員 ・石浜のショッピングセンターがなくなること、買い物や外出ができない人が増えるため、大きな課題を抱えると思います。今週の金曜日から「地域食堂ラソごはん」を新たなつながりのきっかけとして始めます。それを会報に書かせていただきました。地域の人たちをどんどん掘り起こして、手伝っていただける方や自分でやりたいという方が活躍できる場をつくりたいと思っていますので、よかったら覗いてください。 ・部会について、行政のアンケートに子育て支援課の方のご意見として、何か連携できないかと書いてあります。部会には子育て支援課の方はいらっしゃらない気がしましたので、つながれたらと思います。 ◆事務局 ・部会については関係者にもお声がけさせていただきながら進めていければと思います。 ◆委員 ・私は、北部中学校の地域コーディネーターを務めています。今、ぶどう農家がすごく減っていて、10年後には、現在の約30が10程度になるのではないかという中で、北部中学校の子どもたちが、自分たちで盛り上げようということで、東浦町まちおこしプロジェクトとしてクラウドファンディングを始めようとしています。産業祭りでぶどうバターを売るために、1,000個程度つくろうとしています。子どもたちが、自分たちが頑張ることによって、東浦町のぶどうを知ってもらい、東町ってこんなに良いところだよ、という活動をしているため、そういうところから子どもたちと盛り上げていこうと思っています。 ・それに付随して、7月11日、夢パティオとして、北部中学校で自分たちが頑張っていることをアピールしたり、緒川と森岡の子ども食堂が集まってカレーライスを食べ、未成年の主張をします。小さなことですが、地域の大人たちが少しずつ支援し合っていければと思います。
--	---

◆事務局

- ・一緒に何かできたらと思います。

◆委員

- ・子育てネットワーカーとして活動しています。年に1回の子ども用品の無料譲渡会を9月13日（日）に文化センターをお借りして開催することが決まっています。今、物価も上がってきていて、子ども用品にお金もかかる中、子どもに関する出費が家庭に響くというご家庭も多いと思います。追々チラシを広報に載せていただきたいと思っていますので、9月13日に文化センターで無料譲渡会があるということを頭に入れておいていただけると助かります。

◆委員

- ・地域福祉とは離れてしまいましたが、防災関係についてお話しします。サンドボックスゲームで全国1位になった子たちが石浜にいるのですが、その子たちの活動を通して、防災は人とのつながりが大事だということを子どもから発信してくれています。テレビの取材が入っていて、子どもたちがなぜ人のつながりが大事かということをゲームに込めてくれたのか住民と一緒に話しながら、どんなまちにしていけばよいかという取材を進めているところです。また放映が決まりましたらお知らせしたいと思っていますので、ぜひご覧ください。

◆事務局

次回の委員会は令和8年8月18日（火）に行う旨を報告
閉会を宣言

以上